

「Anglo-Saxon語の継承と変容」講演とシンポ

「言語の進化」チンパンジーとの比較で 長谷川真理子・総合研究大学院大学教授が興味深い仮説

「Anglo-Saxon語の継承と変容」プロジェクト平成18年度前期講演会・シンポジウムが6月10日、神田キャンパスで開催され、120人が参加し、盛況だった。統一テーマは「21世紀の創造的言語科学を目指して」。講演会では、大型動物の行動と生態学が専門の長谷川真理子総合研究大学院大学教授が、言語がなぜヒトの固有の生物学的形質として進化したのか、チンパンジーの生態を採る数々の実験データから興味深い仮説を立てた。



▲チンパンジーに関する豊富な実験データを基に解説する長谷川教授

長谷川教授は、「言語の進化を可能にしたヒトの進化」と題して講演。人間と最も近縁なチンパンジーを含む類人猿系統は言語を持たず、単語習得にきわめて時間がかかり文法を習得しない。言語的コミュニケーションを教えられたあとも言語を積極的に利用しようとはしない点に着目。これは、ヒトの子供が言語を習得し始める1歳半ごろから驚くべき速度で学習し、積極的に発話し、発話によって人間関係を形成していくのときわめて対照的である。

では、言語の進化に決定的な違いのあるチンパンジーの系統とヒトの系統とでは何が異なるのか。それは、ヒトと類人猿(チンパンジー)が分岐した600万年前から現代までの間、ヒトの脳容量の増大と、生活史パターンの変化にある。変化は、離乳から18歳までの子供期の延長、それに伴う子供の世話の負担の増大、共同繁殖の重要性の増加である。その結果、言語は子供と大人との間の愛着形成コミュニケーションとして進化した——と結論付けた。

さらに、言語の起源と近代的意味を探るには、言語だけを取り出しては不十分で、ヒトの近代化の全体像の中で考察すべきである。現在のような情報伝達、情報蓄積の意味を持つようになったのは、言語ができた後の副産物で、この機能が言語進化の原動力になったのではない、とまとめた。

引き続きシンポジウムが行われ、中島平三学習院大学教授、外池滋生青山学院大学教授、保阪靖人首都大学東京助教授が「言語の普遍性と多様性を捉える」をテーマに活発な討論を展開した。

同プロジェクトは、平成17年度選定オープン・リサーチ・センター整備事業。7月2日には神田キャンパスで公開講座「ヨーロッパ芸術の源泉—ルネッサンス美術とグレゴリオ聖歌—」(合唱講演も)が開催される。

経済学科公開講座

人と時代と経済学II —私の古典から—

経済学科の教授陣が担当や専門を越え、影響を受けた経済学者を取り上げ、歴史を振り返るのみならず、現代に起こっている諸問題に我々がどう向き合うべきかを考察する公開講座「人と時代と経済学II—私の古典から—」が6月3日からスタートした。

同学部講座のリピーターも多く、約90人が出席した第1回は、石塚良次教授が古典派のリカードについて講演。時代背景を交えてその生涯を追い、代表的な学説である「比較生産費説」などについて、現在の経済事象を挙げながら分かりやすく解説した。



▲軽妙な語り口で聴衆を引き込む石塚教授

【今後の日程とテーマ】

▽6/24「エンゲル 豊かさとその指標を求めて」福島利夫教授

▽7/8「ウェブ夫妻 日本におけるフェビアンの不遇と不幸」唐鎌直義教授

▽7/15「ピグー ウォームハートとクールヘッド」原田博夫教授

お問合せ:教務課経済学部 電話:044(911)1257 ※随時申し込み受付。聴講無料

「The 寺子屋 IV」開講中！



江戸時代の古文書を読むエクステンションセンター主催の公開講座「The 寺子屋 IV」は、初級(枅形庵)と、中級(専修塾)の2コースで、それぞれ5月20日から7月22日までの毎土曜日、生田キャンパスで開かれている。

担当は初級が青木美智男文学部教授＝写真＝と内田鉄平社会知性開発研究センター任期制助手(平18院博文)、中級が青木教授と西澤美穂子文学部非常勤講師(平15院博文)で、初級18人、中級32人が受講している。

法学研究科

日本行政書士会連合会に協力

本学および日本行政書士会連合会の覚書による大学院法学研究科特別履修生(科目等履修生)の大学院授業科目「法律学応用特論」の開始に先立ち、5月13日、神田キャンパスでガイダンスが行われた。

「行政救済法」担当の白藤博行教授と、「家事審判法／民法の親族・相続」担当の家永登教授が授業内容などについて説明した。今年度の受講者は前者が17人、後者が25人で重複履修者が13人となっている。



▲あいさつする白藤教授

《専修人の新しい本》

投票方法と個人主義

田村理 著

なぜ「投票の秘密」は世界の憲法に定着したのだろうか？ 秘密投票制は「近代選挙法の公理」とみなされてきた。しかし、それゆえに関心を寄せられることのなかったこの問いは、近代における個と共同体、個人と民主政治の関係を考える素材を提供する。実は、秘密投票制は論証不要の真理ではなかったからである。秘密投票制をいち早く憲法原則として規定したフランス革命を舞台に、既存の固定概念の呪縛から逃れ、「投票の秘密」という憲法原理が、どのように、なぜ、定着していったかを第一次史料を用いて描く本書は、近代個人主義を核とした近代そのものを改めて問い直す。(創文社・本体5000円＋税)



著者(たむら・おさむ)＝法学部助教授。担当は憲法。

大相撲と歩んだ行司人生51年

根間弘海 著

近年人気復調のきざしを見せている大相撲では、本学出身の片山関をはじめ多数の力士が活躍している。力士の活躍は大勢の裏方によって支えられているが、彼らの暮らしは一般には知られていない。この本では第33代立行司木村庄之助さんへのインタビューを通して、テレビに映る部分だけではない舞台裏を活写している。さながら戦後大相撲の素描集とも言える雰囲気だ。力士がそれぞれ相撲部屋に属する事はよく知られているが、その勝敗を仕切る行司もまた、それぞれ部屋に属する事など初めてこの本で知る人も多いことだろう。付された資料は他では得がたい相撲の知識を含み、観戦の楽しみを倍加させる一冊となった。(英宝社・本体1600円＋税)



著者(ねま・ひろみ)＝経営学部教授。担当は英語。

金融コングロマリット化と地域金融機関

小藤康夫 著

本書は金融庁が目指す大手銀行グループ向けの金融コングロマリット化と、地域金融機関に向けたリレーションシップバンキングについて分析している。

この二つのテーマのうち、特に地域金融機関について多くの紙幅を割いている。それは今日の金融行政にとって地域金融機関のほうが、影響力が大きいからだ。



現在、金融庁は地域金融機関に対して事細かな指導を繰り返している。だが、いくら金融庁が音頭を取ってもそれぞれの地域の実情を知らなければ空回りする恐れがある。

本書ではそうした金融行政の限界を明らかにしている。(八千代出版・本体2300円＋税)

著者(こふじ・やすお)＝商学部教授。担当は金融論・金融システム・金融サービス。

環境コミュニケーションのダイナミズム <専修大学商学研究所叢書5>

見目洋子・在間敬子 編著

本書は、社会的ジレンマとしての環境問題に対して、環境コミュニケーションのダイナミズムを、多くのスタンスと論点から探らうとするものである。

著者らは、環境コミュニケーションが、単に環境広告や環境報告書などの情報提供を指すのではなく、市民・行政・企業の相互作用によって生じる環境学習のプロセスであり、多様なアプローチやシナリオがあることを示している。



市民社会に環境配慮を浸透させるための、国や自治体の関与のあり方、企業の努力、市民の参加、大学

の役割及びパートナーシップ性について再考する上で、本書は「環境コミュニケーションの覚醒の書」として非常に有用である。(白桃書房・本体2900円＋税)

編著者(けんもく・ようこ)＝商学部助教授。担当は商品学・商品開発論。(ざいま・けいこ)＝商学部助教授。担当は環境経済学・環境経営論。

現代世界を動かすもの 仲井 斌 著

本書は、冷戦終結後の21世紀の世界政治の見取り図

を描く試みである。著者が、この「21世紀における世界政治の扉を開く」という遠大な試みを構想した直接の契機は、2001年の「9・11事件」に見られる「文明の衝突」状況(それは同時に世俗社会と信仰社会の対立でもある)であり、より一般的な契機は経済を中心とするグローバル化の進展であった。本書は、「グローバル帝国」アメリカの利害と理念(「自由の帝国」)に対するイスラム原理主義(「神の全体主義」)の抵抗、グローバル経済の最大の恩恵者・中国の「共産主義なき共産党独裁」の矛盾とその危険、ポスト冷戦期のヨーロッパの再生(EUの拡大と深化)を巧みなレトリックを交えて平易に解説する。(岩波書店・本体2700円＋税)



著者(なかい・たけし)＝元法学部教授。

近代アジアのフェミニズムとナショナリズム クマーリ・ジャヤワルダネ 著 中村平治監修

1982年にオランダの社会問題研究所から刊行された『19世紀・20世紀の第三世界におけるフェミニズムとナショナリズム』の改訂・拡大版を、アジアのジェンダーに関する良書を出版したいという中村平治氏の呼びかけで、同氏と発展途上国の地域研究の第一線にある5人の研究者たちが翻訳した。



近代アジアの諸地域の女性たちが、自らの権利擁護の主張提起にとどまらず、置かれた状況を政治的に解決する民族独立の方向で、社会の拘束的な諸条件を打破するために、懸命な闘いを挑んできた過程が、終始一貫した問題意識のもとで分析されている。(新水社・本体2800円＋税)

監修者(なかむら・へいじ)＝元文学部教授。東京外国語大学名誉教授。